

67146

旧番号
IAx(03)

(3)

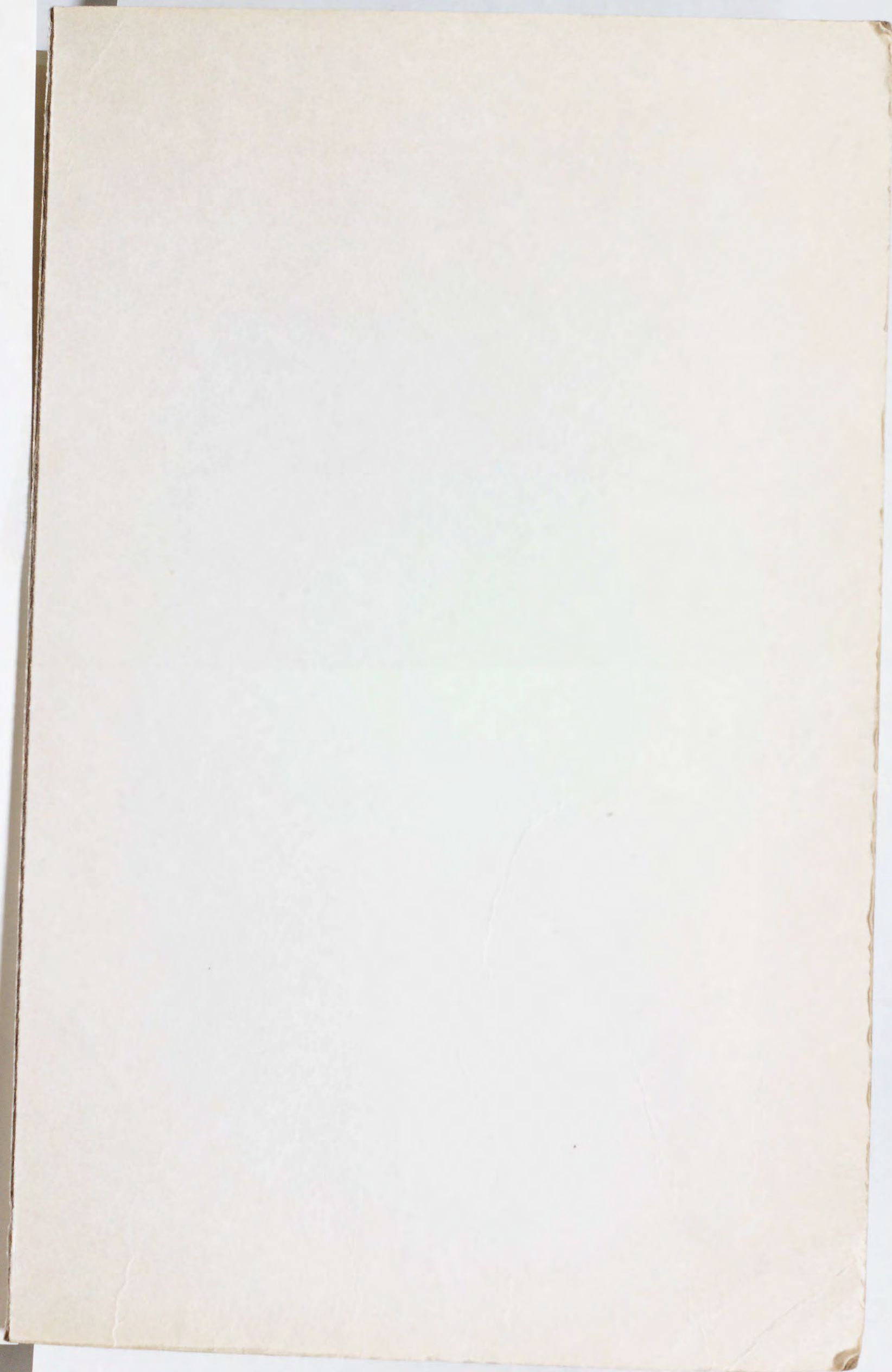
高橋副總裁外債募集関係書類

(明治39~40年)

金融史資料	
分類記号	IAx
整理番号	23(3)
資料名	松尾元總裁 所蔵資料
保管容器	□108

研30009

通貨、金融史料	
分類	IBa
整理番号	27(3)
受入番号	3789
名称	松尾元總裁 所蔵資料
備考	



明治三十九年

～四十年～

發受電報

Blank manuscript page with a blue-lined grid. Faint vertical text is visible in the left margin, including the characters "部" and "三".

一 高納副總裁、善任状
一 口
内命

一 高橋副總裁、善任状

一 口 内命

一 妹方方、内命

一 口 追加

一 津中本、内命

以上

委任状

日本銀行副總裁
高橋是清
委任状

日本銀行副總裁
高橋是清
委任状

委任状

大正十一年三月二十一日

帝國日本政府特派財政委員

日本銀行副總裁 高橋是清

今般財政代理人トシテ政務之出張ヲ命ジ候付

テハ特ニ左ノ権限ヲ委任ス

一 六分利付英貨公債貳千貳百萬磅ノ借換又ハ

償還ノ為メ五分利付英貨公債貳千五百萬磅ヲ

英米、佛、獨、四國又ハ其内一國若ハ數國內ニ

於テ發行、事ヲ駐英帝國大使監督ノ下ニ

於テ担当スルニ

二 右發行ニ付テハ昨年十二月發行四分利付英貨

一 公債ノ條件ヲ基礎トシ従前ノ「レンドケケート」ト
 ト交渉ヲ為スヘシ但事情ノ変化ニ伴ヒ多少
 ノ斟酌ヲ加フルコトヲ得ヘシ
 二 従前ノ「レンドケケート」トノ交渉到底纏マラサルト
 キハ別ニ「レンドケケート」トヲ組織シ之ヲシテ發行ヲ
 引受ケシタムコトヲ得ヘシ
 三 政府ハ来年「月」以後成ル「」ノ速カニ六分利付英
 債公債貳千貳百万磅ヲ償還スル考ナルヲ以テ
 万一直々ニ公債發行ヲ不利ト為政来市場ノ
 事情アルトキハ一時短期証券ヲ發行シ先以テ
 来年「月」以後償還スルキ資金ヲ調達シ追テ

市場ノ形勢良好ナル時ニ於テ公債ヲ發行スル
 手段ヲ取ルヲ得ヘシ

五日帝國政府ヲ代表スル「レンドケケート」其他公債
 募集ヲ引受クヘキモノト談判ヲ為シ又ハ契約ヲ

本項ヲ実行セントス
 明治三十八年野田
 前項ニ依リ六分
 償還ニ充用
 ヲ募集スル
 以テ六分利付
 巨額ノ利付
 スルコトヲ得

ノシニケケ一ト
文化ニ伴ヒ多ク

底徑マラサルト

ヲシテ發行ヲ

ニ六分利付英

考ナルヲ以テ

改米市場ノ

以行ニ先以テ

ヲ潤進ニ進ケ

ヲ發行スル

トシ其他公債

又ハ契約ヲ

中項ヲ実行セントスルニ左ノ規定ヲ要ス
明治三十二年勅令第一五号第一條ノ左ノ一項ヲ追加ス

前項ニ依リ六分利付英貨公債二千二百万磅ノ引換又ハ

償還ニ充用スル為ニ四分利付英貨公債二千五百万磅

ヲ募集スル途ノ間一時同類ノ短期公債ヲ發行シ之ヲ

以テ六分利付英貨公債二千二百万磅ノ償還ニ充テ

巨額ノ下利付英貨公債ノ募集金ヲ以テ之ヲ償還

スルコトヲ得

市場ノ形勢良好トナル時ニ於テ公債ヲ發行スル
手段ヲ取ルヲ得ヘシ

五日奉帝國政府ヲ代表シテフシニダケルトシテ他公債
募集ヲ引受クヘキモノト談判ヲ為シ又ハ契約ヲ
締結スルコト

六公債募集ノ目論見書ヲ承認スルコト

七發行スヘキ公債証券ノ券面金額種類及様式

ヲ定メ之ヲ製造スルコト但公債証券ハ一枚毎ニ

駐英日本帝國大使ノ署名 (Passimile) ヲ

受ケ利札ニ同大使ノ署名ヲ認メテ受クヘシ

八右ノ外公債ノ募集ニ関シ必要ナル事項ヲ便宜

八 変辨 スルコト 其 國 之 事 務 十 年 十 月 廿 三 日 申

明 治 三 十 九 年 八 月 廿 三 日 大 藏 省 大 藏 大 臣 大 藏 大 臣

大 藏 省 大 藏 大 臣 大 藏 大 臣 大 藏 大 臣 大 藏 大 臣

大 藏 省 大 藏 大 臣 大 藏 大 臣 大 藏 大 臣 大 藏 大 臣

大 藏 省 大 藏 大 臣 大 藏 大 臣 大 藏 大 臣 大 藏 大 臣

大 藏 省 大 藏 大 臣 大 藏 大 臣 大 藏 大 臣 大 藏 大 臣

大 藏 省 大 藏 大 臣 大 藏 大 臣 大 藏 大 臣 大 藏 大 臣

大 藏 省 大 藏 大 臣 大 藏 大 臣 大 藏 大 臣 大 藏 大 臣

大 藏 省 大 藏 大 臣 大 藏 大 臣 大 藏 大 臣 大 藏 大 臣

大 藏 省 大 藏 大 臣 大 藏 大 臣 大 藏 大 臣 大 藏 大 臣

大 藏 省 大 藏 大 臣 大 藏 大 臣 大 藏 大 臣 大 藏 大 臣

内 命

今 般 貴 下 对 政 代 理 人 ト シ ノ 政 米 出 張 ニ ツ キ 其 便 宜 ヲ 以 テ 组 育 ヲ シ ン コ ロ グ 高 倉 ノ ヲ シ フ 氏 之 面 會

今 般 貴 下 对 政 代 理 人 ト シ ノ 政 米 出 張 ニ ツ キ 其 便 宜 ヲ 以 テ 组 育 ヲ シ ン コ ロ グ 高 倉 ノ ヲ シ フ 氏 之 面 會

今 般 貴 下 对 政 代 理 人 ト シ ノ 政 米 出 張 ニ ツ キ 其 便 宜 ヲ 以 テ 组 育 ヲ シ ン コ ロ グ 高 倉 ノ ヲ シ フ 氏 之 面 會

今 般 貴 下 对 政 代 理 人 ト シ ノ 政 米 出 張 ニ ツ キ 其 便 宜 ヲ 以 テ 组 育 ヲ シ ン コ ロ グ 高 倉 ノ ヲ シ フ 氏 之 面 會

内命

今般費下財政代理人トシテ改米、出張ニツキ其
便宜ヲ以テ紐育、ク、シ、ン、コ、ロ、グ、高會、ノ、ク、シ、フ、氏、ニ、面會
ノ節ハ南滿洲鐵道株式會社設立ニ付今日マデ
ノ經過ヲ話サレ度又該鐵道ハ未ダ陸軍者ノ管理
ニ屬シ設備ノ極メテ不完全ニシテ長春迄全通セザ
ルニ拘ラス既ニ相商ノ利益ヲ生シ前途有論、皆
ヲモ語ラルヘシ又該鐵道會社所要ノ社債ハ八千万
圓ニシテ可成低利ニ一時ニ募集ノ考存其發行
條件ノ時擇方法等、付由、ク、シ、フ、氏、ノ、意見ヲ探
ラルヘシ但シ會社ハ未ダ設立中ニ在リ随テ未ダ

正式ノ委任者ヲ定メ正式ノ商議ヲ開クノ時機ニ達
セザルモ貴下ハ本件ニ付テ最初ヨリ十分配慮スヘ
キ内命ヲ政府ヨリ受ケ居ル者ヲ諸ラシテ差支
ナシ尤正式ノ委任者トナシヤ否ヤハ今後ノ都合
ニ依ルヘキ付未定ナリト申サレハ

又昨年十月ハハリマシ氏ト桂内閣總理大臣トノ
間ニ成立シタル南滿洲鐵道經營方法ニ関スル
覚書ハ其後鐵道ニ関シ清國ト談判ノ結果
該鐵道ハ日清兩國ノ政府又ハ臣民ノ之ヲ以テ
株主トシテ會社ヲ組織シ經營スルコトト相成テ
付別紙電報(秘密ノコト)ニ通リ取消サレタリ

ニテ政府ハ更ニシテ氏ノ考ヲ聞キ社債ノコト存意
見ヲ交換スルコトト相成テ右ハハリマシ氏面會

ノ節事情誤解ナキ様可然話ニ置カルヘシ
右内命ス
明治三十二年八月廿九日

三ノ政府ハ更ニ「レ」氏ノ考ヲ聞キ社債ノコト存意
見ヲ交換スルコト、相成ヲ有ハ「レ」氏面會
ノ節事情誤解ナキ様可然活シ置カルヘ
右内命ス
明治三十二年八月廿三日

大藏大臣

高橋 宛

財政方針

大務大臣

昭和十一年八月十日
^{格別ノ注意}
 一、財政方針
 二、文藝ノ奨励
 三、教育ノ奨励
 四、産業ノ奨励
 五、交通ノ奨励
 六、衛生ノ奨励
 七、福利ノ奨励
 八、国防ノ奨励
 九、外交ノ奨励
 十、内政ノ奨励

財政方針ノ内示

帝國日本政府特派財政委員

日本銀行副總裁 高島是清

財政方針の指示

帝國日本政府特派財政委員

日本銀行副總裁 高橋是清

(3)

今般外債募集、為改米、派遣相成候付
テハ其任務、遂行上政府將來、財政ニ関シ方
針其他重要、事項ヲ承知セラシ置候事必要
ニ可有シ依リ別紙及訓示候條右ニ據リ政府
財政ノ狀況等必要ニ應シ外國資本家ニ説
明セラルヘシ但該事項中ニハ將來外交其他施
政上様密ヲ要スルコトモ有之モ存相満答的リ
加ハスルハ以テ之ヲモ

明治三十九年八月廿三日

大隈大臣

(以下省略)

大隈大臣

其五、銀行、郵便、海陸、電氣、及
各種事業、其重要者、應予整理、並
合辦、以資發展、並應即行改組、以

日本銀行、郵便、海陸、電氣、及

各種事業、其重要者、應予整理、並

財政代理人トシテ心得置カレ、キ政府財政上ノ方
針ニ関スル候項ハ八月廿三日付リ以テ内示候處
為又裁道國有考定ノ理由ハ九月廿三日付リ

財政方針由示追加

財政代理人トシテ心得置ルルニキ政府財政上ノ方針ニ関シ航條項ハ八月廿三日付リ以テ内示候要
尚又鐵道國有決定ノ理由ヲ説明スル必要アリ
場合ニ依リテ事情ニ亦其ノ理由ヲ一トシテ説明
相成ル此段申進マセ

明治三十九年八月廿九日

高橋元

(4)

私設鐵道ヲ國有トセズ其債ニ差置トキ代
關西鐵道炭浜鐵道ノ^{低利}外資借入ノ例ニ

別レ鐵道ニ依リ外資ヲ輸入スルヲ以テ最モ
至便ナル方法ト為シテ後々其計畫ヲ立テ外
資濫借ノ流行ヲ促シ之カ為テ日清戰役後ニ
經驗ニ名如ク遂ニ泡沫事業ノ勃興ヲ
惹起シ延テ金融界ノ頓調ヲ破ルニ至ルコ
トナキヲ保セス政府ハ茲ニ見ル所アリテ
數年前より問題タリシ鐵道統一ノ方針
ヲ定メ運搬ノ設備ニ遺憾ナカクシテト
同時ニ外資濫借ノ弊ヲ防止スル手取ヲ
取ル名モナリ

今般大我本は官神野勝之助ヲ貴下ニ同行
致米、派遣相成先存別紙ノ通命ニ於テ
其間為多心得此段及通條ノヤ
明治三十九年八月三十日
大我 次官

(5)

今般大我事此官神野勝之助ヲ貴下ニ同行
致米、派遣相成先存別我、通命ニ於成
其間為多心得此般及通勝、ヤ
明治三十九年八月三十日 大我次官

高橋忠

六
六
六

大藏書院
神野勝三助
今般公債事務取扱ノ命ニ其傍ニ政米
諸國ノ經濟財政事項調査ノ為政米、派遣
候ニ付テハ左ノ通心得ニ
...

大藏書院 神野勝三助

今般公債事務取扱ノ命ニ其傍ニ政米
諸國ノ經濟財政事項調査ノ為政米、派遣
候ニ付テハ左ノ通心得ニ

大藏大臣

大藏書記官 神野勝之助

今般公債事務取扱ノ命ニ其傍ラ取米
諸國ノ経過財政事項調査ノ為取米ノ派遣
候ニ付テハ左ノ通心得ニ

明治三十九年八月廿一日 大藏大臣

一 今般財政代理人トシテ日本銀行副總裁

高橋是清ヲ取米ノ派遣ニ別紙ノ通得ニ

命任シ各府同人ト同行ニ政府ノ指揮ニ

從ヒ公債事務ヲ取扱フヘシ

二倫敦駐在中ハ大使館附トシ大使ノ監督
ヲ受クシ

三高橋副總裁帰朝ノ後ハ倫敦ニ滞在
シ政府ノ命令ヲ待ツヘシ

四公債事務ノ傍左ノ事項ヲ調査スヘシ

(一)外國ニ流通シ居ル我公債ノ實況并ニ我

公債ノ取投振ト諸外國ノ取投振ト異ナ

ル點及其利害得失

(二)倫敦其他ニ於テ保有セル國庫金及有

價証券ハ規定通り正確ニ出納保管セ

ラレ居ルヤ其實況

(三)諸外國ノ公債事務取投振圖并ニ其
實際ノ取投振

(四)諸外國ノ中央銀行カ金融市場ニ對スル
作用并ニ其勢力ノ實況

(五)諸外國ノ貯蓄制度及其實況

(六)諸外國ノ株式取引所ニ於テ我公債賣買ニ

價証券の規定通り正確に出納保管に
うし居るや其実況

(三) 諸外國、公債事務取扱様式并に其
實際、取扱振

(四) 諸外國、中央銀行の金融市場に對する
作用并其勢力、実況

(五) 諸外國、貯蓄制度及其実況

(六) 諸外國、株式取引所に於ける公債賣買に
関し政府又中央銀行の如何の利便を與ふ

(七) 諸外國、手形交換所の手形に對し如何の
便利を與ふるや中央銀行の之に對する態度

如何

秘

(八) 其他財政以上參考トナルヘキ必要ノ事項

五財政代理人ト、關係ハ最円満親密ナルコトニ

注意スヘシ

六公務ニ関スル経費任拂方ニ付テハ別ニ命セズ

一

(一) 新長國、新長國ハ新長國ニシテハ其ノ

(二) 新長國、新長國ハ新長國ニシテハ其ノ

新長國、新長國ハ新長國ニシテハ其ノ

(三) 新長國、新長國ハ新長國ニシテハ其ノ

(四) 新長國、新長國ハ新長國ニシテハ其ノ

(五) 新長國、新長國ハ新長國ニシテハ其ノ

財政代理人ニ對スル訓示要旨決定ノ為

大蔵大臣ヲ總理大臣ノ稟議
長子副總裁高橋是清

秘

財政代理人ニ對スル訓示要旨決定ノ為
大藏大臣ヨリ總理大臣ヘノ稟議

曩者首相閣下ヨリ日本銀行副總裁高橋是清ニ
六分利付英貨公債償還資金調達ノ為渡歐セシムルニ
當内命アリタルニ高橋是清ハ切ニ他ニ適任者ノ撰定ヲ
請ヒ而シテ首相ヨリ尚懇篤説話セラレタル結果同人ハ
受命ノ意ヲ決スルニ當リ其任務ヲ遂行スル為ニ必要
ナル財政上ノ事情ニ付政府ノ方針及決心ノ在ル所ヲ
知悉スルノ必要ヲ感スルト雖又一方ニ於テハ其言
ハニト欲スル所或ハ潜踰ニ渉ルノ虞ナキ能ハサル
ヲ以テ頗ル顧慮シ先ツ井上伯ニ事ヲ開陳シタル
ニ同伯ハ是レヨリ先キ本件ニ関シ首相及本官ノ
依頼ヲ受ケ居ラレタルヲ以テ高橋ニ忌憚ナク言ヒト

三十七回... 其

欲スル所ヲ開陳スヘキ旨ヲ勸告セラレタリ是ニ於テ
 高橋ハ井上伯ニ對シ書面ヲ以テ所思ヲ稟陳シ伯ハ松
 尾日本銀行總裁及高橋ト共ニ仔細ニ其陳情事項
 ヲ研究セラシ猶本官及大藏次官モ會合ニ列シ一同胸襟
 ヲ開キ談議ヲ凝ラシタル結果此際何人ヲ派遣スルモ
 募債ノ任務ヲ果タサシムルニハ大伴ニ於テ該事項ヲ
 明確ニスルコトノ緊要ナルコトヲ認メテ本官素ヨリ
 同感ヲ懷クニ依リ先キニ決定相成候 閣下本ヲ
 キ茲ニ左記ノ各事項ヲ決定スル為メ閣下議ヲ
 稟請シ併セテ之カ大伴ニ付テ奏上アリテトテ請
 望スル所以ニ有之候

一政府將來ノ財政方針ニ関スルコト

日露戰役ハ財ヲ費スコト約二十億日ノ巨

額ニ達シ其ノ大部分ハ之ヲ外債ニ仰キ依テ
 以テ財政上破綻ヲ見サリシト雖其整理ハ

(別表添付)

一、政府中... 日露戦役ハ財ヲ費スコト約二十億日ノ巨

(別表添付)

額ニ達シ其ノ大部分ハ之ヲ外債ニ仰キ依テ
 以テ財政上破綻ヲ見サリト雖其整理ハ
 實ニ至難ノ業ニシテ一步ヲ誤レハ國家ヲ若
 境ニ陥ルノ虞ナシトセス豈恐レテ而シテ慎
 マサルヘケシヤ故ニ政府ハ此際政費節約ノ
 方針ヲ取り歳計上收支ノ均衡ヲ維持シ
 以テ公債ノ整理ヲ謀リ財政ノ基礎ヲ鞏固
 ニスルコトヲカメサルヘカラス
 明治三十九年度ノ歳計ハ現況ニ於テ通常
 歳入ハ既定經畫以上ノ好結果ヲ得ルノ見込
 ナリ但公債ノ將來募集ヲ要スルモノ尚約一
 億三千万圓ヲ存スルモ之ハ公衆ニ訴ヘス漸次
 預金部日本銀行其他重モナル金融機関ト

熟談シテ要辦スルノ見込ナリト雖預金部及
日本銀行ハ現在既ニ多額ノ公債ヲ所有シ居
ルノミナラス行賞賜金公債ノ賣物アル場合
ニ於テ之ヲ吸收スルノ作用ヲ為サシムヘカラス
ヲ以テ此事決シテ容易ノ業ニアラサルコトヲ覺
悟セサシムヘカラス

明治四十年年度ニ於テハ鉄道電話製鉄所如ク
其性質生産的事業ニシテ創設當初ハ一時
收支相償ハサシムコトアルモ結局益金ヲ以テ資金
元利償還財源ヲ自ラ供スヘキモノ、經費一限
リ相當ノ程度ニ於テ公債支辨ニ求メ其他ノ
改費ニ付テハ三十八年度剩餘金等（臨時軍事
費剩餘及
捕虜給養費）ヲ以テ支辨ノ方法ヲ定メ新ニ
償還金共

公債ヲ起シ又ハ新稅ヲ課スルヲハ之ヲ避
クルノ方針ヲ要ス

捕虜給養費
償還金共
ヲ以テ支辨ノ方法ヲ定メ新ニ

公債ヲ起シ又ハ新税ヲ課スルコトハ之ヲ避
クルノ方針ヲ要ス

四十一年度以後ハ大作四十年年度ニ準スルキ
モ距離遠キヲ以テ之ヲ論スルハ稍ヤ空想ニ涉
ルニ但シ真ニ豫想ニ過キサレトモ前達稍マ有

望ナル事項ナキニアラス試ニ左ニ記述スヘシ

海關稅ハ明治四十三年ニ至リ協定稅率滿期
ノ上ハ現行國定稅率ノ低ニテモ其收入増加ス

ルナラシ(但本件ハ條約上ノ問題ニ屬スルコトハ惟伯國ノ
感情ニアリテ主ハ其方ナシ)

南滿洲鐵道會社及鴨綠江森林會社等

業ヲ開始スルニ至レハ政府ハ大株主トシテ相

當ノ配當ヲ受クルコトヲ得ヘシ

烟草其他專賣收入ハ消費ノ増進ト共ニ其

收入ヲ増加スヘク設備完竣ノ上ハ更ニ多クノ
増收ヲ得ヘキ見込ナリ
台湾ノ收入ハ漸次増加シ將來同島軍事
費ノ幾部分ヲ負擔シ得ルノ状況ニ達ス
ルナラシ

天津北京ノ駐屯軍費用ハ將來減少シ
得ヘキ見込

韓國ニ於テハ其歳入目下約八百萬圓ナリ
債權ノ整理金融機關ノ開設其ノ他
諸般改革ノ結果國力ノ發達ニ伴ヒ將
來歳入増進スヘキ見込ナリ而シテ同國ハ
軍備外交ニ經費ヲ要スルコト少ナキヲ以
テ帝國力現在同國ノ為メニ支出スル經費

ハ逐年減額スヘキモノト見込ム

然レナカラ各省經費ニシテ官吏増俸其ノ他

軍備の文...
帝國の現在同國ノ為メニ支出スル經費

ハ逐年減額スヘキモノト見込ム
然レナカラ各省經費ニシテ官吏増俸其他
近キ将来ニ於テ多少増加ヲ必要トスヘキモノ
アルコトハ之ヲ記憶セサルヘカラス
要スルニ政府ハ斷乎タシク決心ヲ以テ政費ノ
節約ヲ為サルヘカラス且ツ第六項ニ記述
スル如ク國債整理基金法ノ計畫ヲ確實
ニ実行シ公債ノ信用ヲ保テ其ノ價格ヲ
四外市場ニ維持シ内地農工業ヲ發達
セシメ輸入ヲ防キ輸出ヲ増加シ又ハ各地
ノ産金ヲ吸收スル等正債準備ノ維持
ヲ計ルコト併セテ戦後財政ノ根本方
針ト為サルヘカラス

二諸般ノ施設ヲ付對外財政信用ノ顧慮スルコト

諸般ノ施政上特ニ外交上ニ於テ要務ヲ決定遂行スルニ當リ政府ハ海外ニ於テん國家ノ財政的信用ニ對シ惡影響ヲ及ボサル様最モ慎重ナル注意ヲ為スエトヲ要ス

現今ノ如ク我外債ノ増加ニ且將來ニ於テモ外國資本ニ依ルヘキ必要少ナカラザル場合ニ於テハ諸般政務ノ間ニハ聯絡ヲ保テ特ニ財政上ニ及ボス影響ニ付テハ常ニ慎重ナル注意ヲ為サルヘカラス募債ノ必要ニ迫リタルト

キニノミ頻リニ外國資本家ノ協力ヲ求メ平生其我邦ニ對スル好意ト信用

為サハルハカラス募債ノ必要ニ迫リタルト

キニノミ頻リニ外國資本家ノ協力ヲ
求メ平生其我邦ニ對スル好意ト信用
トヲ培養スルコトヲ怠ルカ如キコトアルハ
カラス故ニ常ニ有カナル財政代理人ヲ
海外ニ派遣シ我財政經濟ノ事情ヲ
正確ニ海外資本家及公衆ニ了得
セシムルト同時ニ新聞雜誌等ノ誤惑
ヲ打消スコトヲカメシムヘク又我外交官
等ニシテ駐在國ニ於ケル有カナル資
本家トノ間ニ親交ヲ結ビタル者ヲ他ニ
轉任セシムルカ如キ場合ニ當リテハ其財
政ノ經畫ニ及ホス影響ノ如何ナルヘキ
カラモ顧念シ慎重ナル考慮ヲ加フル

二六 歳首

コトヲ必要トス

三 財政代理人ニ對スル通信是ニ諮問ノ事

財政代理人出張中財政ニ関スル要件ハ連
カニ之ニ通報ニ且海外市場ニ影響ヲ及ホ
スヘキ事柄ハ政府ニ於テ決定スル以前ニ於
テ成ルテ財政代理人ノ意見ヲ徴シ外國
ノ事情ヲ参酌スルコトヲ要ス

通信諮問ハ政府ノ方針ト財政代理
人ノ言動トヲ一致セシムル所以ニシテ
之ニ依リテ始メテ財政代理人ハ政府ノ
行動ト齟齬スルコトナク能ク資本家ノ
信賴ヲ博スヘキ言動ヲ為スコトヲ得ヘ
キモノトス

四 公債引受ノ申込ニ関スルコト

内地ニ於テ公債引受ノ申込ヲ為ス者アル

信頼ヲ博スヘキ言動ヲ為スコトヲ得ヘ
キモノトス

四公債引受ノ申込ニ関スルコト

内地ニ於テ公債引受ノ申込ヲ為ス者アル
モ政府ハ直接之ヲ受付ケス始メヨリ其ノ事柄
ヲ財政代理人ニ知照スルモノトス

諸方面ヨリ交渉ヲ受クルノ途ヲ開キ
自ラ撰擇者ノ地位ニ立ツコト一見利
益アルニ似タリト雖資本家等ノ間ニ
ハ微妙ノ關係アルカ故ニ其事情ヲ
熟知シテ操縦宜キヲ得サレハ却テ事
ヲ破ルノ虞アリ而シテ既ニ外財政代
理人ヲ派遣シアルニ拘ハラズ内亦直接
交渉ヲ開クカ如キアラハ之カ為メ出ル
者ハ談判ニ際シ充分堅固ノ地步ヲ

占ムル純ハサルニ立至ルヘシ故ニ内地ニ於
テ公債引受ニ関シ希望ヲ申出ツル
者アルモ政府當路者ハ公私共ニ之ニ向
テ期待スル所アラシムヘキ何等ノ言ヲ
モ為サレコトヲ要ス

五海外資金ノ運用ニ関スルコト

海外資金ノ運用方法ハ之ヲ財政代理人
ニ委託スルモノトス

公債募集金收納ノ為募集地ニ
於ケル金融市場ヲ攪乱セラルハ欧米
資本家ノ甚シク懸念スル所ニシテ此
点ニ付テ彼等ニ安心ヲ與ヘサレハ募集
ノ成功ヲ期シ難シ素ヨリ募入金ノ

處分ニ関シ政府ヲ束縛スルノ約束
ヲ結フコトハ之ヲ避ケサルヘカラスト雖政

点ニ付テ彼等ニ安心ヲ與ヘサレハ募集ノ成功ヲ期シ難シ素ヨリ募入金ノ

處分ニ関シ政府ヲ束縛スルノ約束ヲ結フコトハ之ヲ避ケサルヘカラスト雖政府ノ仕拂ニ差支ヘサル限り募入金ヲ確實ニ運用シ市場ニ放出スルハ單ニ利殖上有利ナルノミナラス外債政策トシテ必要トスル所ナリ故ニ海外資金ノ取扱方ハ之ヲ財政代理人ニ委託シ直接政府ノ指揮ヲ受ケ政府ノ不利益トナラサル範圍内ニ於テ資本家ノ満足スヘキ運用方法ヲ取ラシムルヲ要ス

六國債ノ整理ニ関スルコト

既往及将来ノ國債ハ左ノ方針ニ依リ之ヲ整理處辨スルモノトス

日露戰役前ノ既定經畫ニ屬スル我國債
ニ對シテハ其ノ元利償却ノ為メニ從來一
般歳入ヨリ約三千六百萬圓一年ニ依リ増
減アリテ取除キ償却資金ニ充用セリ今
後モ尚右金額ヲ特別會計ニ移シテ該
資金ニ充ツル計畫ナリ而シテ右公債中
ニハ既設官有鐵道等ニ使用セシ資金
ヲ含有スルカ故ニ今後ト雖既設官有
鐵道ヨリ生スル純益金ハ總テ一般歳入
ニ繰入ルヘキ方針ナリ
明治三十七八年ノ事件ノ為發行セシ内外
國債及其借換ノ為メニ發行スル國債約十
九億八千萬圓ニ對シテハ一年ハ一億千万圓

ヲ下ラサル金額ヲ一般會計ヨリ特別會計
タル國債整理基金ニ繰入レ之ヲ以テ其元

國債及其借換、為ニ發行スル國債約十
九億八千万圓ニ對シテ、六年、一億千万圓

ヲ下ラサル金額ヲ一般會計ヨリ特別會計
タル國債整理基金ニ繰入レ之ヲ以テ其元
利償還其他取扱手数料等ノ費用ニ
充ツルコト（其計數ニ關スル別紙第一號表
ハ之ヲ公示シテ差支ナシ）
私設鐵道買収ノ為發行スル公債約四億
二千万圓ニ對シテハ買収鐵道ノ益金ノ内
ヲ以テ之ク元利ノ償還ヲ為スコト
將來新ニ經畫スヘキ公債ニ付テハ之ヲ以テ
支辨スル事業ノ收支ヲ考ヘ創設當初
一時ハ一般會計又ハ募集公債金ノ内ヨリ
其利子ヲ仕拂フコトアルヘキニ結局ハ事業
ヨリ生スル益金ヲ以テ公債ノ元利償還ヲ為

スコトヲ得ヘキ見込アル場合ニ於テ程度
ヲ計リ之カ計畫ヲ為スコト

明治三十九年度國債整理基金豫算施
行ノ現況ハ別紙第一號表ノ通りナリ

七私設鐵道ノ買收ニ関スル件

政府ハ本年七月一日ニ於テ京釜鐵道ヲ買
收シ尙本年十月ヨリ十二月ニ涉リ左ノ六鐵
道ヲ買收セントス

北海道炭礦鐵道株式會社所屬鐵道

甲武鐵道株式會社所屬鐵道

日本鐵道株式會社所屬鐵道

岩越鐵道株式會社所屬鐵道

山陽鐵道株式會社所屬鐵道

西成鐵道株式會社所屬鐵道

買收豫定ノ鐵道ニシテ前記以外ノモノハ今後

日本鐵道株式會社所屬鐵道
岩越鐵道株式會社所屬鐵道
山陽鐵道株式會社所屬鐵道

西成鐵道株式會社所屬鐵道

買收豫定ノ鐵道ニシテ前記以外ノモノハ今後
市場ノ景況ニヨリ時機ヲ見テ買收スルノ經畫ナリ
私設鐵道ノ買收濟ニ係ルモノハ特別會計トシテ
經營スルモノニシテ其收支計算ハ全部ノ買收ヲ
了シタル後ニ於テ別紙第二號表ノ通トナル見込ナリ
買收鐵道ニ對シテ交付スヘキ公債證書ハ買收後
五ヶ年内ニ之ヲ交付スヘキモノナリ而シテ國債整理
資金ヲ以テ國債ノ償還ヲ為スコトヲ得ヘキ金額
年ニ約三千万圓ナルヲ以テ政府ハ其償還スル國
債ノ金額ニ考ヘ國債總額ノ大ニ増加スルコト
ナキ様注意シテ公債證書ヲ鐵道會社ニ
交付スヘキカ故ニ市場ニ及ホスヘキ影響ハ極メテ

少ナキ見込ニシテ其利子拂及償還ハ買收鐵道ヨリ生スル益金ノ内ヲ以テ之ヲ支辨スルコトヲ得ルノ計算ナリトス

又買收鐵道、修繕保存ハ營業費中ニ於テ之ヲ又出シ其改良ハ益金ノ内ヨリ買收公債ノ利子拂及償還ニ充當シタル金額ヲ差引キタル殘額ノ範圍内ニ於テ之ヲ實施スル見込ニシテ右改良ノ外尚ホ擴張ヲ必要トスル場合ニハ従前ノ官設鐵道ト同シテ財政ノ許ス程度ニ於テ之カ經畫ヲ立ツヘキモノニシテ此財源ハ時ニ公債ニ依ルコトアルヘキモノトス
前項ニ依リ募集スルコトアルヘキ公債ハ鐵道ノ益金中ヨリ其元利償却ノ途ヲ立ツヘキ

モノニシテ従前ノ減債基金ヲ傷ケサル様計畫ヲ要ス

前項ニ依リ募集スルコトアルキ公債ハ鐵道
ノ益金中ヨリ其元利償却ノ途ヲ立ツヘキ

モノニシテ従前ノ減債基金ヲ傷ケサル様
計畫ヲ要ス

八外資輸入ニ關スルコト

外資輸入ハ經濟上極メテ必要ノコトナリト雖
其條件又ハ借入先ノ如何ニ依リテハ獨リ借主
ノ迷惑スルノミナラス特ニ一國ノ信用ニ關シ
國債ニ影響スルコト甚ナカラサルモノナリ故
ニ政府ハ或ル程度コトハ之ニ干渉シ一般
信用社會ノ秩序ヲ維持スルヲ勉メサルヘ
カラス政府ハ從來此方針ヲ持シ地方公共團
體カ外資ヲ輸入セントスル企圖ヲ生スルニ當
リ必ス先政府ニ内議セシメ又私設會社ニシ
テ外國ニ於テ公衆ニ向テ社債ヲ發行セントス

ル場合ニ於テモ政府ハ成ルヘク内議ヲ受クルコトヲ
期シ之ヲシテ内外資本ノ共同ニ成リ外資輸入ニハ
最モ適當ノ機關タル日本興業銀行ニ就テ商議
セシムルノ手段ヲ執リタリ日本興業銀行ハ其株主
中ニ英佛米獨諸國ノ有力ナル資本家ヲ有シ
外資輸入機關トシテハ最モ信賴スヘキ適當ノ
モノナルカ故ニ今後ニ於テモ外資ノ輸入ハ成ルヘク
同行ニ依ラシムルコトヲ一層勉ムルヲ以テ政府ノ
方針トシ同行ノ株主トナリタル外國資本家ノ
期待ヲ損セサルヲ期スルヲ要ス

日本興業銀行總裁ハ外國株主トノ關係モアリ
且テ歐米ノ出張セシムル等ノ要諸種ノ便利
上高橋カ英國滞在中ニ出張スル標準備

ヲ命スヘシ

九南滿洲鐵道及鴨綠江森林ノ經營ニ關スルコト

魚ヲ歐米、出張セシムル等ノ要諸種ノ便利
上高橋カ英國滞在中ニ出張スル様準備

ヲ命スヘシ

九南滿洲鐵道及鴨綠江森林ノ經營ニ關スルコト

南滿洲鐵道ハ日清兩國政府及日清兩

國人ヨリ成ル株式會社ヲ設立シ之ヲ其經

營ニ當ラシムルノ經畫ニシテ資本總額ヲ

二億圓トシ内一億圓ハ日本政府ノ持株トシ

左ノ財産ヲ以テ日本政府ノ出資ト為スモノトス

一 既成ノ鐵道

二 其鐵道ニ付屬セル一切ノ財産但租借地内

ノ財産ニシテ政府ノ指定シタルモノハ之ヲ

除ク

三 撫順及煙台ノ炭坑

本會社ハ大連ニ於ケル海陸運輸ノ連絡ニ必

要ナル設備ヲ為スヘク又鐵道ノ便益ノ為メ左ノ
附帶事業ヲ營ムコトヲ得ルモノトス

一 鑛業特ニ撫順及煙台ノ炭鑛採掘

二 水運業

三 電氣業

四 倉庫業

五 鐵道付屬地ニ於ケル土地家屋ノ經營

六 其他政府ノ許可ヲ受ケタル營業

南滿洲鐵道ノ軌道ハ四呎八吋半トシ營業開

始後三年內ニ改築セシムルモノトス

本會社資本全額ニ億圓ノ内日本政府ノ

持株一億圓ヲ除キ他ノ一億圓ニ付テハ先ツ

其五分ノ一即二千萬圓ノ株式ヲ募集シ殘餘

八千萬圓ハ社債ヲ募集シテ之ニ充ツルモノ
ニシテ此社債ハ外國ニ於テ調達スルノ見込

持株一億圓ヲ除キ他ノ一億圓ニ付テハ先ツ
其五分ノ一即二千万圓ノ株式ヲ募集シ殘餘

八千万圓ハ社債ヲ募集シテ之ニ充ツルモノ
ニシテ此社債ハ外國ニ於テ調達スルノ見込
ナリ

外國ニ於テ本會社ノ社債ヲ募集セシトスルト
キハ政府ハ德義上先ツ以テ第一ニコレツラ氏ニ
相談スヘキ事情アリ而シテ該社債ニ付テハ政
府ハ元利償還ノ保證ヲ與フヘキヲ以テ担
保ヲ提供スルノ要ナシト認ムト雖若シ資本
家ニシテ政府ノ元利償還保證ノ代リニ會
社ヨリ担保ヲ提供スルコトヲ希望スルニ於
テハ南滿洲鐵道ヲ担保トシテ提供スルモ差
支ナカルニシ
此一項ハ極メテ秘密ヲ要スルカ故ニ高橋ノ
心得マテニ止メ公言ヲ憚ルコト

毎營業年度ニ於ケル本會社ノ利益配當カ

個人持株ニ對シ年六分ノ割合ニ達セサル
トキハ日本政府ハ會社設立登記ノ日より起
算シ十五ヶ年ヲ限り之ヲ補給スルモノトス
但補給金ハ拂込金ニ對シ年六分ノ割合ヲ
超過スルコトナキモノトス又毎營業年度ニ
於ケル會社ノ利益配當カ個人持株ニ對シ
年六分ノ割合ヲ超過セザルトキハ日清兩國
政府ノ持株ニ對シテハ配當ヲ為スヲ要セザル
モノトス

政府ノ補給シタル金額ハ年六分ノ割合ノ利子
ヲ付シ會社ノ債務ト為シ利益配當カ年
一割ノ割合ヲ超過スルニ至リタルトキハ其超過

過額ハ此債務ノ償還ニ充ツヘキモノトス

鴨綠江森林ノ伐採事業ハ本會社ヲシテ

う付し會社ノ債務ト為し利益配當力年
一割ノ割合ヲ超過スルニ至リタルトキハ其超

過額ハ此債務ノ償還ニ充ツヘキモノトス
鴨綠江森林ノ伐截事業ハ本會社ヲシテ
之ヲ營マシメ別ニ日清合同ノ株式會社ヲ設
ケ資本金二百五十萬圓ヲ以テ營業セシムル
モノトス此資本ハ日清兩國ニテ均分スヘキ
モノニシテ日本ノ出資スヘキ百二十五萬圓ハ日
本政府全然之ヲ引受クルノ内意ナリ目下計
算スル所ニ依レハ此事業ハ年ニ約百五十
萬圓ノ純益ヲ生スヘキ見込ナリ

(第一号)

三十九年度國債整理基金收支計算

(三十九年八月十四日調)

×年×月×日書

(第一号)

三十九年度國債整理基金收支計算 (三十九年八月十四日調)

× 中 八 朱 書

科目	原簿算額		流用増減及前年度繰越額		現簿算額		三十九年七月卅日將未必要支出額		所用額計		自由債還額	
	原簿算額	流用増減及前年度繰越額	現簿算額	三十九年七月卅日將未必要支出額	所用額計	自由債還額	原簿算額	流用増減及前年度繰越額	現簿算額	三十九年七月卅日將未必要支出額	所用額計	自由債還額
舊元金償還	四九九二、四三二	—	四九九二、四三二	四七七四、七八九	四九九四、二四五	—	—	—	—	—	—	—
利息	七七一、九五四	四三三、六	一二〇五、五九八	一〇、三二四、二九	二六、六五六、〇四一	—	—	—	—	—	—	—
大藏省證券入札子	三、四一、八二	一、〇二、七九	四、四四、六一	九、〇、八六三	一、二六、〇六三	—	—	—	—	—	—	—
元利私教料	一、二四、九一	—	一、二四、九一	—	八七、八六二	—	—	—	—	—	—	—
證書製造及發行費	五、一六八	—	五、一六八	—	三九、三二九	—	—	—	—	—	—	—
國債雜費	五、〇一	—	五、〇一	—	五、〇一	—	—	—	—	—	—	—
臺灣事業費	—	四三三、六〇六	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	三六、〇八八、九三八	一、〇二、七九	三六、一一一、七二八	一、〇二、七九	三六、一一一、七二八	—	—	—	—	—	—	—
臨元金償還	三、四一三、〇五二	—	三、四一三、〇五二	—	三、四一三、〇五二	—	—	—	—	—	—	—
計	三、四一三、〇五二	—	三、四一三、〇五二	—	三、四一三、〇五二	—	—	—	—	—	—	—
差引残	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(第二号)

鐵道買収ニ要スル公債償還年限計算表 (日本外十六鐵道)

三十九年上半期末調

合計	借換整理		行各		關		件事		利子
	國庫債券償還	計	國債雜費	發行費	元利拂子敷料	元利拂子敷料	元利拂子敷料		
三二五、〇六、八三二	一六八、九一七、八八四	一一〇、〇〇〇、〇〇〇	四八八九	三六八六、八七二	四四一、六九二			八三四五三、四九五	
二八、五四七、二二四	三七、六五七、二一	八、八九、一三七							
三四三五四、四六三	二〇六、五七五、二五	一〇九、〇八七三	四八八九	三六八六、八七二	四四一、六九二			八三四五三、四九五	
三〇、四四一、一四二	一四、六八七、〇〇〇	四、七三三、六八五	二七九四	六、六六七	三三三七八			三五、九四、九二二	
二四、六七、五九三	四、三三七、〇〇〇	五、九三、一〇二	二〇九三	三六八、二〇五	二四一、三三八			五七、四五、三九六	
五三三四、〇八、一九七	一八四、九四〇、〇〇〇	二、六六六、七八七	四八八七	三六八六、八七二	二七、三六、六			八六、八四、三一八	
一九、〇四、八四九	三、六五、〇二五	四、七四九、九一四			一六八、八六			三三八六、八二三	

備考
 一、流用概一〇、七九〇、四及八、八九、一三七四、英貨公債募集金海外ヨリ送金未着ノ為、一時借換整理ニ関スル償還金流用セシメテ付送流用戻シラナクヘキモノナリ
 二、國庫債券償還豫算増額 三七、六五七、二四一、内二八、五四七、三三四、前年度繰越額九、九一七、四、流用増額ナリ

年度	建設費	公債利息	益金残額	改良費	公債償還	公債額
三十九年
三十八年
三十七年
三十六年
三十五年
三十四年
三十三年
三十二年
三十一年
三十年

(第二号)

鐵道買收ニ要スル公債償還年限計算表 (日本外十六鐵道)

三十九年上半期末調

年度	建設費	益金		公債利息	益金残額	改良費	公債償還額分配	公債額
		建設費對益金割	建設費對益金割					
一	二二九、六四一、二四〇	〇、九〇六	二〇、八〇五、四九六	二二、七五二、六七八	八七四、四六一	八七四、四六一	四二五、一三三、三五六	四二五、一三三、三五六
二	二二〇、五二五、七〇一	〇、九二五	二一、二四一、八一五	二一、〇七五、六六八	一、三一〇、七八〇	一、三一〇、七八〇	四二五、一三三、三五六	四二五、一三三、三五六
三	二二二、八二六、四八一	〇、九四四	二一、七六六、六八二	二一、〇七五、六六八	一、八二九、六二七	一、八二九、六二七	四二五、一三三、三五六	四二五、一三三、三五六
四	二二三、三六六、六一〇	〇、九六四	二二、三四八、〇七三	二一、〇七五、六六八	二、四一七、〇三八	二、四一七、〇三八	四二五、一三三、三五六	四二五、一三三、三五六
五	二二三、六〇七、三二四	〇、九八四	二二、九三九、六六一	二一、〇七五、六六八	三、〇〇七、二二六	三、〇〇七、二二六	四二五、一三三、三五六	四二五、一三三、三五六
六	二三九、一三三、六八二	一、〇〇四	二三、七〇〇、七四四	二一、〇七五、六六八	三、七〇七、〇〇九	三、七〇七、〇〇九	四二五、一三三、三五六	四二五、一三三、三五六
七	二四〇、二六五、〇八五	一、〇二五	二四、五二一、二二二	二一、〇七五、六六八	四、七一一、二六二	四、七一一、二六二	四二五、一三三、三五六	四二五、一三三、三五六
八	二四一、三九六、四八八	一、〇四六	二五、三三二、七二八	二一、〇七五、六六八	五、四九七、五九四	五、四九七、五九四	四二五、一三三、三五六	四二五、一三三、三五六
九	二四三、五二七、八九一	一、〇六八	二六、一八二、二八六	二一、〇七五、六六八	六、三三九、五七〇	六、三三九、五七〇	四二五、一三三、三五六	四二五、一三三、三五六
十	二四五、六五九、二九四	一、〇九〇	二七、〇三二、八四四	二一、〇七五、六六八	七、三三九、九六九	七、三三九、九六九	四二五、一三三、三五六	四二五、一三三、三五六
十一	二四七、七九〇、六九七	一、一一三	二七、九三三、四〇二	二一、〇七五、六六八	八、三三九、三六七	八、三三九、三六七	四二五、一三三、三五六	四二五、一三三、三五六

為一時借換整理ニ關スル償還金三流用セシメテ付進三流用戻シテナクヘキモノナリ

一 國庫債券償還豫算増額 三七、六五七、二四一円ノ内ニ八、五四七、三二四円ハ前年度繰越額九、一〇九、九一七円ハ流用増額ナリ

中二	二四九、九二九、六五五	、一三五	二八、一〇、八、〇、五、六	一、二四四、六三三	二九、二五二、六八九	一九、八一六、一六〇	九、四三六、五三九	二、八三〇、九五九	六、六〇、五五七	三、八九七、一七、六二八
中三	二五二、七六、六一四	、二一六	二八、九九、八四、〇	一、二四四、六三三	三〇、一三六、四七三	一九、四八五、八八一	一〇、六五〇、五九二	三、一九五、一七八	六、四五五、四一四	六、四五五、四一四
中四	二五五、九五五、七九二	、二一八	二九、九二、六八、五七	一、二四四、六三三	三一、〇七一、四九〇	一九、一三三、一一一	一一、九五八、三七九	三、五八七、五一四	八、三七〇、八六五	三、七三三、七三三
中五	二五九、五四三、三〇六	、二二〇	三〇、九四、五、五五	一、二四四、六三三	三二、〇八九、六八八	一八、六九四、五七七	一二、三九五、一一一	四、〇一八、五三六	九、三七六、五八五	三、六四一、五二四
中六	二六三、五六一、八四七	、二二二	三二、〇二、七六、四四	一、二四四、六三三	三三、一七三、五七七	一八、二五七、三三八	一四、九四六、五三九	四、四八三、九六二	一〇、四六五、五七七	三、五二四、〇五二
中七	二六八、〇四五、八〇四	、二二六	三三、二〇、八七、九二	一、二四四、六三三	三四、三五三、四二五	一七、七〇、二六〇、九	一六、六五〇、八一六	四、九九五、二四五	一一、六五五、五七二	三、四二二、三九六
中八	二七三、〇四一、〇四九	、二二八	三四、四七、〇六、九〇	一、二四四、六三三	三五、六一五、三三三	一七、二一九、八三一	一八、四九五、四九二	五、五四八、六四八	一二、九四六、八四四	三、四九七、七七二
中九	二七八、五八九、九九七	、二三〇	三五、四九、五三、三六	一、二四四、六三三	三六、六三九、九六九	一六、四七二、四八九	二〇、一六七、四八〇	六、〇五〇、二四四	一四、一七二、三六三	三、三三三、五三六
中十	二八四、六三九、九四二	、二三二	三六、二一、六六、六一	一、二四四、六三三	三七、三六一、二九四	一五、七六六、六二七	二一、五九四、六六七	六、四七八、四〇〇	一五、二一六、二六七	三、二二六、二六九
中十一	二九一、二一八、三四一	、二三四	三七、〇〇、三三、九二	一、二四四、六三三	三八、一四七、八二五	一五、〇一〇、八一三	二二、一三七、〇一二	六、九四一、一〇四	一六、一九五、九〇八	三、二八四、〇三〇
中十二	二九八、〇五九、四四九	、二三六	三七、八四、五三、八四	一、二四四、六三三	三九、九九〇、〇一七	一四、二〇一、〇一八	二四、七八八、九九九	七、四三六、七〇〇	一七、三五三、九九九	三、二六六、六八〇
中十三	三〇五、四九六、一四五	、二三八	三八、七四、七七、二八	一、二四四、六三三	四〇、八九二、三六一	一三、三三三、四〇三	二六、五五八、九五八	七、九六七、六八七	一八、五九二、二七一	三、二四八、〇七六
中十四	三一三、四六三、八三三	、三四十	三九、七二、四九、九	一、二四四、六三三	四一、八五九、一三二	一二、四〇三、八四〇	二八、四五五、二九二	八、五三六、五八八	一九、九一八、七〇四	三、二二八、一五八

二十五	三五三、〇〇、四二〇	夕	四〇、七五、〇二、九八	一、二四四、六三三	四二、八九四、九三一	一一、四〇七、九〇四	三〇、四八七、〇二七	九、一四六、一〇八	二一、三四〇、九九二	二、六八一七、一六八
二十六	三三三、一四六、五二八	夕	四一、八六、〇五、五	一、二四四、六三三	四三、〇〇四、六八八	一一、三四〇、八五八	三二、六六三、八三〇	九、七九九、一四九	二二、八六四、六一八	二、八三三、四八七
二十七	三四〇、九四六、七七七	夕	四三、〇四、九、四九	一、二四四、六三三	四四、一九三、六八二	九、一九七、六二四	三四、九九六、五八	一〇、四九八、八一七	二四、四九七、三四一	二、五九二、四八七

二十三	三〇五、四九六、一四九	ク	三八、七四七、七二八	一、一四四、六三三	三九、八九二、三六二	一、三、三三三、四〇三	二六、五五八、九五八	七、九六七、六八七	一、八九九、二七一	二、四〇、七六、七七一
二十四	三二二、四六三、八三二	ク	三九、七四、四九九	一、一四四、六三三	四〇、八五九、一三二	一、二、四〇、三、八四〇	二八、四五五、二九二	八、五三六、五八八	一、九、九一八、七〇	三、二八、一、五八、〇、八七

二十五	三五、〇〇、四二〇	ク	四〇、七五〇、二九八	一、一四四、六三三	四一、八九四、九三一	一、二、四〇、七、九〇、四	三〇、四八七、〇二七	九、一四六、一〇八	三、一、三四〇、九一九	二、六、八一七、一六八
二十六	三三、一、四六、五二八	ク	四一、八六〇、〇五五	一、一四四、六三三	四二、〇〇〇、四八八	一、三、四〇、八、五八	三二、六六三、八三三	九、七九九、一〇九	三、二、八六四、六八一	一、八、三、九、五、四、八七
二十七	三四、〇九四、六七七	ク	四三、〇四九、〇四九	一、一四四、六三三	四三、一九五、六八二	九、一九七、六二四	三四、九九六、〇五八	一〇、四九八、八一七	二、四、四九七、二四一	一、五、九、四、五、二、四六
二十八	三五、一、四四、四九四	ク	四四、三三三、九三八	一、一四四、六三三	四四、四六七、五七一	七、九七二、七六二	三七、四九四、八〇九	一、一、三四八、四四三	二、六、二四六、三六六	一、三、三、二、〇、八、八〇
二十九	三六、六、六九、九三七	ク	四五、六八七、七八四	一、一四四、六三三	四六、八三三、四一七	六、六六〇、四四四	四〇、一七六、九七三	一、二、〇、五一、五九二	二、八、一、二〇、三八一	一、〇、五、〇、八、八、四、九九
三十	三七、四、七四、五二九	ク	四七、一五〇、〇八二	一、一四四、六三三	四八、二九四、七五五	五、二五四、四二五	四三、〇四〇、二九〇	一、二、九、一、二、〇、八七	三、〇、一、二、八、二、三三	七、四、九、六、〇、九九六
三十一	三八、七、六五、六一六	ク	四八、七二六、七八九	一、一四四、六三三	四九、八六一、四二二	三、七四八、〇一五	四六、一三三、四〇七	一、三、八、三、四、〇、三二	三、二、七、九、三、八五	四、二、六、八、〇、九一一
三十二	四〇、一、四九、〇三八	ク	五〇、三九五、三六〇	一、一四四、六三三	五一、五三九、九九三	五、一三四、〇四六	四九、四〇、五、九四七	一、四、八、三、七、八四	三、四、五、八、四、一六三	八、〇、九、六、七、四、八
三十三		ク	五二、一九三、七八三	一、一四四、六三三	五三、三三八、四一六	四〇、四、八三七	五二、九三三、五七九	一、五、八、八、〇、七四	三、七、〇、五、三、五、〇五	益金残額 二、八、九、五、六、七、五七

備考

一、本表ハ十七鐵道買収ニ要スル公債償還年限ノ計算トス

二、建設費ハ第一年ニ於テハ三十九年上半期末現在實額ヲ採リ、第二年ヨリハ前年中ニ得タル改良費ヲ
 繰加算シテ将来ノ建設費トス

三、建設費ニ對スル益金割合ハ明治三十二年乃至三十六年ノ五箇年間開業線各年期末建設費合計ニ對スル同年間益金合計割合（一箇年トシテ）即チ、〇・八五ニテ求メ其割合ハ明治二十七年乃至三十六年ノ十箇年間ニ於ケル各年建設費ニ對スル益金割合ノ各其前年ニ對スル増減歩合ヲ平均シタルモノ即チ、二〇・七〇。各年逐次増進スルモノト假定シテ算出シ一割三步ヲ以テ最高限度ト定ム但建設費ニ對スル益金割合ハ買収十七鐵道ノ實數ヨリ算出ス

四、改良費トシテ繰込ミタル建設費ハ其次年ニ於テ始メテ生利力ヲ生スルモノト假定スルヲ以テ益金ヲ算出スルニハ建設費ニ對スル益金割合ヲ其前年ノ建設費ニ乘シテ求ム但第一年ニ限り同年ノ建設費ニ依リテ益金ヲ求ム

益金ハ其内ヨリ公債利子ヲ仕拂ヒ第一年乃至第五年ハ其殘額全部ヲ改良費ニ充テ第六年以後ハ其三割ヲ改良費ニ七割ヲ公債償還ニ分配充用ス

(別表ノ一)

戦後ニ関スル經費内譯表

種目	第一次豫算額	第二次豫算額	第三次豫算額	計
臨時軍事費	一五五九七一三五八四一	三八〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	六〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	一七四六四三三〇三五八四一
種目	明治三十六年勸令第二	明治三十八年十二月	豫算外支出額	
百九十一號ノ依リタル支				
出額				

(別表ノ一)

戦後ニ関スル經費内譯表

種目	明治三十八年勸令第二 百九十一號ノ依リ多ク支 出額	明治三十八年十二月 豫算外支出額
臨時軍事費	一五九七一、三五八四一	六、〇〇〇、〇〇〇
各省臨時事件費	二五七、八九三九三	二八八、二五四、九二八
計	一、五九三、八九九、七七一	八八八、二五四、九二八
第一次豫算額	四、〇〇〇、〇〇〇	五、二九五、〇〇〇
第二次豫算額	七、〇〇〇、〇〇〇	七、九五〇、〇〇〇
第三次豫算額	一、七四六、四二一、三五八四一	一、七四六、四二一、三五八四一
計	一、五九三、八九九、七七一	一、五九三、八九九、七七一

備考

各省臨時事件費ニ對スル第一次豫算額ハ明治三十七年度第二次豫算額ハ同三十八年度第三次豫算額ハ同三十九年度ニ於ケル臨時事件豫備費豫算額ナリ

(別表ノ三)

今後發行ヲ要スル公債額調 (三十九年八月十日調)

一金貳千貳百四拾四万九千五百圓

軍隊引揚等ノ經費ノ内及

(別表ノ二)

今後發行ヲ要スル公債額調 (三十九年八月十日調)

一金貳千貳百四拾四万九千五百圓

軍隊引揚等ノ經費ノ内及
此募集ニ億圓ノ差額

一金六千叁百拾九万叁千貳百四拾貳圓

臨時事件ニ関シ要スル費途ニ對シテ

一金叁千万圓

行賞則金一億肆万圓ノ内
現金所要見込ノ分

一金千六百六拾五万圓

事業費ノ為發行スル額

計金壹億叁千貳百貳拾九万貳千七百四拾貳圓

Handwritten text on a slip of paper, including the characters "三好" and "三好" written vertically.



(五六)

Main body of the document with multiple vertical columns of text, mostly faint and illegible.

二ノ
三ノ
四ノ

三井物産
左井、愛蔵

水町
水町

正色

三井物産
印

7

215
⑦
本箱
（印）

（印）
今紙類に之類は
（印）



相為之於此

相禮之子之為

亦亦亦亦亦亦

亦亦亦亦亦亦

亦亦亦亦亦亦

亦亦亦亦亦亦

亦亦亦亦亦亦

亦亦亦亦亦亦

亦亦亦亦亦亦

亦亦亦亦亦亦

亦亦亦亦亦亦

亦亦亦亦亦亦

此乃天下第一

此乃天下第一

此乃天下第一

此乃天下第一

此乃天下第一

此乃天下第一

此乃天下第一

此乃天下第一

此乃天下第一



書

花邊
松屋

(8) ~ ①

細音高抄別抄裁宛

奏信

九月三十日 午辰三刻

中一平

改行より左へ通 奏信 被下たり
安着り 加算 又 高方 重くし

高橋副總裁ヨリ

<p>高橋副總裁ヨリ</p>	<p>...</p>	<p>...</p>	<p>...</p>	<p>...</p>	<p>...</p>	<p>...</p>
----------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------

高橋副總裁ヨリ

要信

九月二十九日午後八時着

中一号

着後歐米市場ハ不変我目的ニ不利ナシ形勢
ナルヲ察見セリ尤モ右國金融上盛言戒ヲ加ハ居
重ナル原因ハ目下米國農工業盛ナル為資金
不足ニ英佛等ヨリ金塊ヲ輸入スル事多ク故ナリ
シツフ意見見ハ未着ヨリ秋マテノ間ニハ必ズ今ヨリモ
好時様トナル故日存改訂ハ現在海外ニ所有スル資
金ヲ流用スル費括々極メ此際可成速ニ六分利付
公債全額償還ノ事ヲ廣告シ而テ此廣告ハ日存
公債ノ利率優ニ好影響ヲ生ズル故然ル後ニ公債後

進行スレバ確ニ今日ヨリハ有利ナル条件ヲ得ルヘシト
云フニ有之是拙者出資前申上ル意見ト同ナリ
尤モ同人此際直ニ公債譲ヲ試ムトスレバ佛國ニ
依ルノ外ナキハ小生ト同意ヲ有セリ又夫レニ佛
國ロスチャイルド家が佛國大銀行ニ対シテ有スル
勢力強大ナルヲ拙者ノ豫想外ニ有之事ヲ同人
困難ノ度ニ豫想外ニ強クお成申出
明リ當地出資此英ノ上更ニ事情取調可申出

延延延延延延

停致

受不字

傍教

副總裁

十月六日午後四時
十月七日 正午

本日到着

日本銀行

Handwritten text in the top section of the page.

Handwritten text in the middle section of the page.

Handwritten text in the bottom section of the page.

Handwritten text in the bottom left corner.

高橋副總裁へ

奈良信

十月八日午前六時

ハ号

仰安着ヲ祝ス

南滿州鐵道會社申込株式一億四千六百餘株
 二達セリ之ヲ南滿州鐵道會社ノ事業ヲ有利ト認
 メタルニ因ル自然ノ人氣ト之ヲ利用シテ作りまん
 人為
 的ノ人氣トニテ斯ル異常ノ結果ヲ生じタルナルニ
 右の如く金ノミニテモ五億圓ニ達スルニ至リ取扱銀行
 ニ於テ預ケ合又ハ貸借ヲ為シ現貨ノ動キハ多ク之故
 ヲ以テ金融界ニ何等影響多ク至之モ我々銀行
 ノ所為甚妙ナク仍テ將來ヲ警戒ス積ナリ

又一般企業執、兆候、対して、急ぐ注意致す、
アリ、南滿州、鉄道、存社株式申込、閉る、政府
以外、通信有之トキ、外国市場、不安ヲ生る
ヤ、難斗、廿為念、右電報致す

（Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page)

十月十日

高橋副總裁

高橋副總裁

高橋副總裁

十月八日午後五時三十分

奏信

沖三郎

改訂より左通奏電被仰たり

此電より一、領事改訂海外保有還金流用

ノ覺悟ヲ極メ此際速ニ六分利付公債償還シ

ト公告スルト云フコトヲノ意見ハ一、權宜ノ処分

ニシテ國庫ニ取テハ極メテ大事ナリ國庫仕拂

ノ現況ヲ以テ推算スルバ現豫算中明年

四月ニ繰越得メキ正貨保有高約二億三千

万圓有之見込ナル故前記權宜ノ処分ハ絶

對シ不能ニ非ルモ万一去年四月次ニ於テ公債

日本銀行

秦行出東不廿八中、國庫窮境、臨、又、此
事、以、委、烟、書、面、言、申、上、又、以、委、氏、是、即、會、處、
子、所、故、愛、報、致、其、

淡路、河、水、之、流、也、其、水、之、流、也、其、水、之、流、也、
淡路、河、水、之、流、也、其、水、之、流、也、其、水、之、流、也、
淡路、河、水、之、流、也、其、水、之、流、也、其、水、之、流、也、
淡路、河、水、之、流、也、其、水、之、流、也、其、水、之、流、也、

淡路

淡路(日本書紀)

淡路(日本書紀)

淡路(日本書紀)

受第三号

副總裁

十日十二時三十分

十日十二時三十分

貴電才二号領派伯林ライヒにハリ利息

ハ上英蘭領力七番五、金、需要正サト、案

正モハシ、出、法心、得玉モ業及、倚

新市場金、途、道、方、政、政、策

昔所々之儀 諸開始、時様ニテ々々今併

二三箇、内ニハ必在勸界ニ多ク安心

生る時様 来りしカト想係ニ其場在ニ於

テモ、何カ和付公儀 数リニ人集ニ付ハス、寧

五カ和付公儀ニ改ル方一旦盤上ニ玉注、和

益トナルレ因テ時様 則来ル五カ和付公

儀 数リ、テト、方針 取可也 或、亦云ニ是

二カ止事、十九、レシテ、ス、各理ニ、四カ和付

いふ止事一十人、し十人、各理二回、利付
么儘、安儘、為りえん、も現在人等及
り、益上利益多、し十人、将来我公、後益
行、方地盤、空国、二人、利益大、り、内、注、請
り、然、又日本興業、銀行株、買取日本、
送、人者、一万株、以、比、又、買、物、視、し、夕、り、日本
三、何、人、力、之、買、取、或、八、日、方、派、否、此、反

一、...
 二、...
 三、...
 四、...
 五、...
 六、...
 七、...
 八、...
 九、...
 十、...

副總裁

副總裁

奈信

十月十二日午後十時三十分

乃也
 貴客の事ニテ末文曰存興業銀行株ハセリル商會ニ
 三ツも株輸入シ之ヲ存 邦仲買人福島南店ノ如キ
 者ノ手ニテ賣却セルニ趣ニテ末畧然ノ買人ハ不明ナリ
 尤モ存郵ト係數トノ相傷今日ノ如キ南キアル向ハ今
 后モ輸入ノ傾向有之レト考エ其右ノ外凡復コソレバ
 サニセル又ホラツク商會又ハチヤキドヲ代理店トシテ
 前同様 輸入シ企ツ、アリトモ同ハ其但政府ノ内意
 ハ外人ニ株ヲ持スル事此株ノ存郵人ノ手ニ
 戻ルハ當分ノ外好ニ不申 趣ニ有之ル 依テ之ヲ

防圖 三ノ手段ハ十中力也却考ヨ乞フ

E 本 金 行

[Faint, mostly illegible handwritten text in vertical columns]

本行

十五十ノ外十Lation.

包得遊ノ

要信

[Faint handwritten text on the left edge of the page]

要信

ハ号

明治二十三年十月十三日午七時

日本一向々電報報ハ大使館迄急ニ有自

今、^{コレニシテ}業源ハ延由可ハ友報トシテ實川

ハおナ、東京ニ於テ代金江拂、為東

於ハ通信者外務省ト打合一區取計相

朱長

一、明太祖皇帝...
 二、明太祖皇帝...
 三、明太祖皇帝...
 四、明太祖皇帝...
 五、明太祖皇帝...
 六、明太祖皇帝...
 七、明太祖皇帝...
 八、明太祖皇帝...
 九、明太祖皇帝...
 十、明太祖皇帝...

劉銘

大隈信

別紙裁

十月十日午後

は号

大隈伯例、通世觀の気焰ヲ自由通信負
 吐タリ大隈伯、對字ハ頗ル杜撰十ニモ多ク少貴
 方ニ對御者スハヤ不設計 神節ト云換可然
 打語者云致

光緒二十九年
 四月二十二日
 光緒二十九年四月二十二日
 光緒二十九年四月二十二日
 光緒二十九年四月二十二日
 光緒二十九年四月二十二日

光緒二十九年

四月二十二日

光緒二十九年

光緒二十九年

光緒二十九年

乃号 季候

十月十四日午六时

昔々乃号其自の本興共善智の株備及
 分ハバミユリん、ゴントレ、此ノ印紙貼用ノ上
 波久乃来故本邦ニテ假株奉ヒ引換ル事ト
 一可トシ承知、今上金元謝絶スル物故也

真稿

割額裁

奈信

十月十五日午後九時

に号

此費乃号ニ并添田給裁ヲ左通費報依頼アリ
セール商會ノ分一千株ハゴルトリテ契約ヤル条ニ
ヨリ指定ニ奉タリテ不同止家ト相成 他ハゴ
ルトシテ系係又ハ指定セザルナラハ同好々等ト相成

Handwritten text in a cursive style, likely a list or notes. The text is faint and difficult to read, but appears to contain several lines of characters.

Handwritten characters, possibly a signature or a specific entry.

十世 10th generation or similar numerical notation.

Handwritten characters, possibly a date or a reference.

要

Handwritten characters, possibly a title or a section header.

茅山寺 要信

十月十六日午六時

前月十六日巴里二美りが夫にて主方電信
才三子に江中進出件ニ対免心得方所括
揮以に既下幸上取取

高橋

副總裁、

十月十六日午後六時

奏候

中三年

改訂より左ノ通テ新電社下たり

其電牙三年ノ中四号ノ銀五五分利并公債

りノ件ハ昨年十一月敕令ヲ以テ四年ノ修訂

案スノミナラズ其方金融界ハ多大ノ影響ヲ與

當る者ハ頗ル攻撃ヲ受ル事ハアムク内閣又ハ

憂慮シテ是事故可成半四分之好都合ニ纏

ル様凡カ方之是也トモ凡英米佛ノ協議ヲ以

他ノ策ヲ多ク之場合ニハ不喝止同意あり

ニ改訂手取ハ九八%以上ト致成而テ修訂年

ヨ
大
民
行

限ハ三十年以内トスルニ
四ヶ年目ニハ年四ヶ年
目ニハ年四ヶ年目ニハ年
四分ニ引下ト申ルニ豫メ
整理ノ事ヲ約束スル
事ヲ得ハ最モ好都合ナリ
存件ニ松方伯井
上伯トモ打合テ

己ノ身ニ是レ州ノ區長
長クシテ其ノ長クシテ
其ノ長クシテ其ノ長クシテ
其ノ長クシテ其ノ長クシテ

事務

事務

十区十ヶ年十ヶ年

高橋副總裁

事務

高橋副總裁

要信

十月十六日午前一時

中五号

貴電身三号、欲求英佛独、重んじ理財家、
 就友誼上、意見内之、聞合又事情、取調を以
 今日手ヲ附ル時様、ニアラズ、未考迄待テ可トスルハ
 異口同音ナリ、作併、日本帝心政府が政治的
 理由、ヨリ今日是非処、分テ要スナラバ、低價ニテ
 四分利、母公債ヲ發行スルカ、又ハ五分利、母公債ニ改
 マシ、發行スルカ、ニ違アルニ、四分利、母公債、發行ハ
 低價ト、是凡佛心ノ外、今日成功、見込多ク、然レ凡
 佛心ニ於テハ、六分利、母公債、所有者ナリ、英米ニ於ケル

六分利并公債所有者ハ現金償還ヲ受得寄
再日本公債ニ放償スル事ハ多量未是ハ從來
他國ノ公債処分上ニ屢經驗アリ一ニシテ現金
償還ハ日本帝心改訂將來ノ地盤ヲ監クスル上ニ
大換アリト云フ又佛心トモ此一國ニテ二千三百万
磅ノ公債ヲナシ其現金ハ悉ク英米ニテ仕拂レ
自國ニ貸スル現金減額ナル結果トシ故今日ノ金
融大勢ニテハ佛心改訂ハ許サレト云フ故ニ五分利
并公債トシテ凡事額ヲ佛心ニ募集シ強高ヲ以テ英
米ノ六分利并公債所有者ニ優先權ヲ與ヘ方法ニテ
募集スル方先各國ノ得意ノ延置上ニ於テ也又成
功ノ上ニ於テハ最上ノ策トスル者ノ如シ乍併五分利
并公債トモ此手取九五%位ニ費得スルノ要ム

又由申越、利子遞減、方約束、并公債發行、
該念、中、が、う、我、財、政、ノ、信、用、未、其、程、度、ニ、達、セ、久、疎、ニ、
今日ノ、場、合、ニ、於、テ、ハ、不、能、ノ、事、ナ、リ、
然、若、巴、色、行、ハ、
来、ル、ニ、テ、是、者、近、近、ハ、シ、形、就、テ、ハ、此、際、而、希、望、ノ、如、ク、
好、条、件、ヲ、得、能、ハ、サ、レ、バ、對、此、来、者、近、近、ハ、久、事、ニ、
費、情、ヲ、申、ヤ、又、ハ、是、非、共、此、際、出、来、得、ハ、ズ、
后、ニ、取、握、可、申、哉、
方、針、ノ、取、方、ニ、并、至、急、而、差、圖、
有、之、歟、

及信

別紙

十月二十日午前十時

は年

係白紙載り左通電報依頼あり

セールの假株券の傷敷ニテ後サレ得ルト記載

シアンが故、興業銀行 辛床ニテモ後サレ、シテ則

トスル理由トシ此地多交付ヲ要求シテ止し不申

採用セザレバ訴訟進行ヲヤモ絶斗旨申指被

就タル内地と東タニ分ニ対シゴンドンカ興業銀

行、指圖ヲ拒絕スルトキハ其結果如何概念ニ不

堪依テ事情一應申出被、由見込如何

書本長行